

令和5年度第2期泉佐野市まち・ひと・しごと創生総合戦略会議

第1回事業評価委員会 会議録要旨

開催日時	令和5年7月20日（木）午後6時30分～8時30分	
開催場所	泉佐野市役所5階 第一会議室	
案件	1 開会 2 委員の紹介 3 事務局の紹介 4 議 事 （1）泉佐野市の状況について（報告） （2）令和4年度実施事業の進捗状況・評価・検証について （3）今後の予定について （4）その他 5 閉会	
委員出席者	吉村委員長 武田副委員長 菊野委員 高山委員 鉄谷委員 湯川委員	
事務局出席者	北川政策監兼市長公室長 福井地方創生担当理事兼政策推進課長 松田政策推進課長代理 谷口政策推進課主任 中上政策推進課係員	
創生本部の幹事	奥教育長 阪上政策監兼成長戦略室長 林環境エネルギー担当理事 今西中心市街地活性化担当理事 刀谷政策監兼健康福祉部長 桑村政策監兼都市整備部長 河野中期財政運営管理担当理事	福本政策推進担当理事 中下政策監兼市民協働部長 向井農林水産課長 木ノ元郷土芸能担当理事 古谷政策監兼こども部長 久禮まちづくり調整担当理事

配付資料

- 【資料1】 泉佐野市まち・ひと・しごと創生総合戦略会議・事業評価委員会委員名簿
- 【資料2】 泉佐野市まち・ひと・しごと創生総合戦略会議・事業評価委員会設置要綱
- 【資料3-1】 デジタル田園都市国家構想交付金 令和4年度活用実績
- 【資料3-2】 デジタル田園都市国家構想交付金 令和5年度申請状況
- 【資料4】 令和4年度実施事業評価一覧表
- 【資料5】 PDCAサイクル 進捗管理シート

《開会の辞》

《委員・事務局・幹事紹介》

《委員長・副委員長の紹介》

《資料確認》

《本会議の設置根拠や会議運営にあたっての諸事項説明》

事務局： 只今の説明について、ご意見、ご質問等がありますか。

《なし》

続いて、次第4の議事に入ります。ここからの進行については、先ほども申し上げたとおり、吉村委員長に議長をお願いしたいと思います。吉村委員長、よろしくお願いいたします。

委員長： 委員長にご指名にあがりました吉村でございます。

長めの会議となりますが、どうぞよろしくお願いいたします。

では、早速ですが、泉佐野市の状況につきまして、事務局の方からご説明をお願いいたします。

事務局： 《(1) 泉佐野市の状況について報告》

それでは、案件(1) 泉佐野市の状況について、総合戦略には全国的に進む人口減少に歯止めをかけるという目的がありますので、資料はありませんが、泉佐野市の人口の状況等を、まずご説明したいと思います。

昨年7月の評価委員会でもご報告させていただきましたが、本市の直近の国勢調査人口は、令和2年10月1日現在で100,131人、世帯数が、43,864世帯となり、前回の平成27年国勢調査人口と比べて835人の減となりました。人口の増減率は $\Delta 0.83\%$ で、前回の 0.16% 増からマイナスに転じたものの、それでも大阪府内43市町村では13番目に高い数値でありますことから、「なんとか踏みとどまっている」状況です。

一方国レベルでは、本年6月に公表された厚生労働省の令和4年人口動態統計月報年計によりますと、出生数は過去最少、自然増減数は過去最大の減少幅、合計特殊出生率は1.26(対前年比 $\Delta 0.04$ ポイント)で7年連続低下といった状況です。

また大阪府下では、合計特殊出生率が1.22と0.05ポイント低下している状況です。

泉佐野市の状況ですが、全国的に人口減少が進んでいるなか、本市の場合も人口が暦年ベースで見ますと減(R3.12末98,840人→R4.12末98,545人で $\Delta 295$ 人【住民基本台帳より※外国人含む】)という結果になっています。やはり、全国的な傾向と同様自然減が増えている一方で、世帯数が増えているのは、閑空関連事業所に就労されている外国人を含む単身世帯や大学生等の単身世帯が増えていることが主な要因であると考えています(R3.12末47,658世帯→R4.12末48,268世帯で610世帯増)。一方、直近の状況では、令和5年2月末以降の毎月末の人口が増加に転じており、主な要因が外国人人口の増加です。とりわけ外国人人口については、本市の場合は、交流人口ではなく定住人口として見ており、近年の外国人人口については増加の流れが一転し、コロナ禍では減少となりましたが、ポストコロナに向けて再び外国人人口が増加しているところです。

人口の状況は以上のとおりです。

それでは、資料3-1の1枚目から2枚目の表裏をご覧ください。

地方創生に伴う国の財政支援であるデジタル田園都市国家構想交付金（地方創生推進タイプ）の令和4年度の活用実績等についてご報告いたします。

まず、表の見方ですが、表の左上に交付金の種類を記載しており、この交付金を活用充当した各事業を総合戦略に掲げた4つの基本目標ごとに記載しています。表の左側から番号、当該事業の担当課名、事業名、事業概要、決算額、決算額の中の交付金充当額、市の負担となる一般財源額、事業開始年月、事業完了年月、そして、参考としまして、当該事業の進捗管理シートを資料5で綴っていますので、そのページ数を、備考欄には予算計上時期を記載いたしました。

それでは、「デジタル田園都市国家構想交付金（地方創生推進タイプ）」の活用状況について、簡単にご説明します。平成28年度早々に、地方創生の深化に向けた総額1,000億円を予算規模とする「地方創生推進交付金」が新設され、現在に至っています。この交付金の特徴としましては、事業期間は複数年度も可能とし、安定的・継続的に支援するところにあります。また、2分の1補助と自立性も求められているところも特徴の1つです。令和4年度における交付金につきましては、単独・広域連携事業合わせて、「外国人受入環境整備事業」「eスポーツ MICE コンテンツ実証計画」「KIX 泉州ツーリズムビューロー事業」「関空立国デスティネーション化推進事業」「『恋人の聖地』観光誘客連携による地域活性化事業」「『恋人の聖地』広域市町村連携による関係人口拡大に向けたバーチャルコンパクトシティ」の6事業を申請し、6事業が交付決定されました。令和4年度における交付金額は資料3-1の2ページ目裏面最下段になりますが、1億3,085万7,585円となっています。

続きまして、資料3-2の1枚目から2枚目をご覧ください。

デジタル田園都市国家構想交付金（地方創生推進タイプ）の令和5年度の申請状況等についてご報告いたします。

平成31年度に地方創生推進交付金対象事業として認められた事業は、事業期間を複数年度（5年）としていることから、5年目の事業の実施にあたり、交付金の申請をしています。番号でいきますと資料2枚目の広域分の2番「関空立国デスティネーション化推進事業」で4,713万5千円となっています。

さらに令和4年度に地方創生推進交付金対象事業として認められた事業として、番号でいきますと資料1枚目の単独分の1番「eスポーツ MICE コンテンツ実証計画」で7,000万円と、資料2枚目の広域分の3番「『恋人の聖地』広域市町村連携による関係人口拡大に向けたバーチャルコンパクトシティ」で844万5千円となっています。

以上、単独分1つで7千万円、広域分2つで5,558万円となっており、3つの事業の合計が資料2枚目の最下段にあります1億2,558万円となっています。

なお、この地方創生推進交付金（現在は「デジタル田園都市国家構想交付金（地方創生推進タイプ）」につきましては、今後とも交付金や基金の活用も含めて、財源の確保に努めていながら、地方創生に向けた取り組みを行っていきたいと考えています。

報告は以上です。

委員長： 令和2年度実施された国勢調査の人口や交付金などのご報告でしたが、何かご意見、ご質問等はないか。

〈なし〉

それでは次に（２）令和４年度実施事業の進捗状況・評価・検証について、先に資料等について事務局から説明を受けた後、検証方法と進め方について、ご意見を頂戴したい。それでは、事務局の方からの説明をお願いしたい。

事務局：《（２）令和４年度実施事業の進捗状況・評価・検証について説明》

事業評価委員会のメインとなります令和４年度実施事業の進捗状況・評価・検証についてですが、資料４と資料５を基にして、評価等をしていただくこととなります。

まず、資料４をご覧ください。

令和４年度実施事業評価一覧表としまして、総合戦略に掲げた全事業の評価一覧表で、

４つの基本目標ごとに、それぞれの事業を記載しています。表の左側から、番号、具体的な施策及び事業名、令和３年度の確定評価（ここで少し訂正がありますが、市評価と記載されていますが、正しくは確定の評価ですので、「市」という文字を削除いただきたく存じます）、続きまして、令和４年度の市の評価、委員会評価、コメント、そして当該事業の進捗管理シートを、次にご説明させていただきます。資料５に綴っていますので、そのページ数を記載いたしました。市評価につきましては、裏面の２ページの集計になりますが、評価はＡ・Ｂ・Ｃ・Ｄ・Ｅの５段階評価とし、一番評価が高いのはＡ評価で「目標以上に進捗しており、このまま継続して事業を推進する」で、反対に一番評価が低いのはＥ評価で「目標値または事業自体の抜本的見直しを要する」としました。その集計ですが、Ａ評価が１３事業、Ｂ評価が１０事業、Ｃ評価が一番多く２０事業、Ｄ評価が１事業、Ｅ評価が０事業で、合計４４事業が今回の評価対象事業数となっています。

なお、新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受けた事業につきましては、評価欄を青いセルにしています。これは、コロナ禍の影響で、事業やイベントの一部中止により、その数値が大幅に減少もしくはゼロとなったもの（例：福祉・保育・教育系の事業）であったり、コロナ禍の影響によりインバウンドの減で、その数値が大幅に減少したもの（例：観光系の事業）です。そもそも第２期の総合戦略策定時は既にコロナ禍であったため、KPI等の数値目標にも一定のコロナ禍の影響を盛り込んでいますが、令和４年度後半は徐々に回復基調であったものの、やはりその影響は少なからずあります。しかしながら、それでもって評価を調整・修正することの公平性や統一性、また技術的なものを勘案しまして、シビアな評価にはなりますが、出された数値そのもので判断しています。

また、一覧表の委員会評価及びコメント欄につきましては、資料５の進捗管理シートでの委員会評価の結果を記入できるようにしており、委員会としてのコメントがある場合は○印を記入するようにしています。

次に、資料５をご覧ください。PDCAサイクルの進捗管理シートを事業ごとに作成したものです。表紙をめくっていただき、１ページ目を参考にシートの説明をさせていただきますと、まず上段の表では、基本目標、基本的方向、具体的施策、事業名、事業概要を、中段の表では進捗状況としまして、目標事項やKPI（重要業績評価指標）、現状値を記載しております。そこへ令和４年度の実績値とその達成度を記入しており、この令和４年度の実績が評価の判断材料の１つとなります。

ここで、少し達成度について補足説明させていただきます。事業評価は、事業内容などの評価に加え達成度も勘案して事業全体を評価することとなります。またその指標につきましては、事業の性質上、単年のものや累計のものがあります。そのあたりを表の中の「令和７年度目標値」の横に明記しています。

また、その横にある指標の傾向も補足説明させていただきます。矢印で「上向き・平行・下向き」で示しています。これは指標によって、待機児童数のように０を堅持することを目標にした時の「平

行」や、不登校生徒数のように減らすことを目標にした「下向き」で示したものです。

なお目標事項ごとに、KPI 設定根拠や KPI 目標数値の積算根拠も示しています。

そして下段になりますが、令和 4 年度の市の評価としまして、担当課の評価と進捗状況のコメント、改善としまして、令和 5 年度の取り組みなどのコメントを記載しています。これらも評価の判断材料になるものと考えています。あと、最下段には、委員会としての評価とコメントを入れる欄を設けています。

また、各シートの右下にはページ数を記載しており、このページ数は先ほどの資料 4 に記載しているページ数と連動しています。

以上、これらの資料を基に、各委員に評価いただくこととなりますので、よろしく申し上げます。

委員長：何か他にご質問はないか。《なし》

それでは、評価の進め方について、私の方からご提案をさせていただきたい。これから、1つ1つの事業について評価する訳だが、時間的な制約もあるので、基本的には資料を事前にお読みいただいているという前提で、個別の事業については、事務局から補足説明が必要なものだけ説明して頂くということにしたい。そして、評価の方法であるが、市の自己評価に対して、特に皆さまのご意見がない場合には、委員会としては自己評価どおりとさせて頂きたい。ただ、市の自己評価と異なる評価を委員会でする場合には、委員会として、その判断理由のコメントを記すということにしたい。以上のような評価の仕方では進めさせていただいてよろしいか。《なし》

では、その形で進めさせていただく。それでは、評価に入らせて頂くが、4つの基本目標があるので、目標ごとに分けて、評価していきたい。それでは、まず、基本目標①安定した雇用を創出するについて、事務局から補足説明をお願いしたい。

事務局：《基本目標①の事業について補足説明》

それでは、基本目標①に掲げる各事業の令和 4 年度市の評価に対する補足説明をさせていただきます。なお、ここからの基本目標ごとの補足説明につきましては、各事業の市の評価が B 評価である「ほぼ目標どおりに進捗しており、継続して事業を推進する。」以外の評価となった事業を中心に説明させていただきます。

まず、資料 4 の評価一覧表の表面をご覧ください。

基本目標①「安定した雇用を創出する」に掲げた事業は 7 事業です。市の評価につきましては A 評価が 3 事業、B 評価が 1 事業、C 評価が 3 事業となりました。

それでは、資料 5 の 2 ページをご覧ください。「企業誘致奨励金事業」ですが、事業概要としましては、市内に新たに事業所を建設・設置される企業で、一定条件を満たす場合に奨励金を交付するものです。資料 4 の水色のセルで示したとおり、コロナの影響を受け、目標事項①の奨励金交付企業について新規件数が発生せず、目標事項②の新規雇用者も現状維持に留まったことから、目標事項①②の達成度を総合的に判断し、市の評価としては C 評価としています。

次に、資料 5 の 3 ページをご覧ください。「地場産品創出支援事業」ですが、事業概要としましては、ふるさと納税を利用して企業から新たな地場産品の提案を受けて、クラウドファンディングのプロジェクトを実施するものです。目標事項①の企業誘致件数の達成度が 100%を超えたこと、また目標事項②のクラウドファンディングに係る交付予定事業件数も、複数年にまたがる事業が年々減少し、年度内で完了するケースが多くなったことから、対前年度比で減ってはいるものの比較的堅調であることを総合的に判断し、市の評価としては A 評価としています。

次に、資料 5 の 4 ページをご覧ください。「エリアマネジメント活動推進事業」ですが、事業概

要としましては、本市の中心市街地の活性化を図るため、エリアマネジメントの推進や遊休不動産の活用等により、中心市街地の再生に取り組むものです。目標事項①②とも、KPIの数値や達成度が高くなったことから、市の評価としてはA評価としています。

次に、資料5の5ページをご覧ください。「地域就労支援事業」ですが、事業概要としましては、働く意欲がありながら雇用や就労を実現できない就職困難者等に対し、地域就労支援事業の活用、相談、資格取得講座への誘導等を行い、一人でも多くの就労の実現に向けて支援するものです。KPIである『就労に結びついた就労者数』の実績値が目標値を下回っていることから、市の評価としてはC評価としています。

次に、資料5の6ページをご覧ください。「地域課題解決型就職氷河期世代就労支援事業」ですが、事業概要としましては、雇用環境が厳しい時期に就職活動を行い、現在も様々な課題に直面している方々の就業を支援するものです。KPIである『就労に結びついた就労者数』の実績値が目標値を大幅に上回ったことから、市の評価としてはA評価としています。

次に、資料5の7ページをご覧ください。「外国人受入環境整備事業」ですが、事業概要としましては、外国人材に対してのワンストップ相談窓口の設置、優良な外国人材の確保・育成を通じた雇用マッチング、地域社会の交流支援などを実施するものです。資料4の水色のセルで示したとおり、コロナ禍の影響を受け、外国人就労者の斡旋が困難な状況が続き、実績に繋がらなかったことから、目標事項の①②ともにKPI達成度の進捗が思わしくないところですが、そのような状況下でも外国人就労者に関する相談窓口での相談件数が増加していることから、市の評価としてはC評価としています。

基本目標①の補足説明は以上です。

委員長： それでは、基本目標①の各事業について、何かご意見・ご質問等はないか。

委員： 3ページの「地場産品創出支援事業」のKPIについて、令和5年度以降も目標値は単年度9件とするのか。

事務局： 単年度評価で判断していく。

委員： 5ページの「地域就労支援事業」について、改善コメントの欄に「きめ細やかな支援ができるメニューを提供していく。」と記載してあるが、そもそも就労相談が減少している理由はなにか。

幹事： 就職フェアなどの参加人数は一定の人数が参加しているが、求職者と企業側の仕事のニーズが合わなかった。市としては資格所得を支援するバウチャー事業を通じて、希望されている職種に就職しやすくなるような施策を進めていきたいと考えている。

委員： それが記載している「きめ細かなメニュー」でしょうか。

幹事： その通りである。

委員長： 他いかがか。《なし》

基本目標①についてはよろしいか。それでは基本目標①の事業については、市の自己評価の通りとさせていただきます。

次に、基本目標の②であるが、定住魅力の強化により泉佐野市への新しい人の流れをつくるというところについて、事務局から補足説明をお願いしたい。

事務局：《基本目標②の事業について補足説明》

基本目標②に掲げる各事業に対する補足説明をさせていただきます。

資料4の評価一覧表表面の中段の表をご覧ください。

基本目標②「定住魅力の強化により泉佐野市への新しいひとの流れをつくる」に掲げた事業は10事業です。市の評価につきましても、A評価が3事業、B評価が2事業、C評価が5事業となりました。

引き続き、資料4の評価一覧表の中段をご覧ください。基本目標②のうち、②観光による交流人口の拡充の9番から12番、また③MICE誘致の推進の15番、そして④シティプロモーション活動の強化の17番につきましても、新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受けた事業として、市の評価欄を青色のセルで表記しています。これは、コロナ禍の影響によるインバウンドの減・観光客の減などにより、そのKPIの数値が低迷している状況です。資料5の9ページから12ページと、15ページ、17ページがその該当事業ですが、先ほどの評価方法の説明でもお伝えしましたとおり、出された数値そのものでシビアな判断・評価を行ったことにより、B評価やC評価となっています。

それでは、資料5の13ページをご覧ください。「恋人の聖地」広域市町村連携による関係人口拡大に向けたバーチャルコンパクトシティ事業」ですが、事業概要としましては、NPO法人地域活性化センター「恋人の聖地」プロジェクトに参画する14市町村の広域連携・共同事業等により、関係人口の拡大をめざすものです。目標事項の①観光入込数や②仮想市民登録者数、そして③地方志向者の魅力度数、それぞれの実績値が大幅に目標値を上回ったことから、市の評価はA評価としました。

次に、資料5の14ページをご覧ください。「eスポーツ MICE コンテンツ実証事業」ですが、事業概要としましては、eスポーツを通じて人々に交流の機会を提供するほか、これを通じた人材育成等の取り組みによって、交流の増加・深化を図り、新たな都市魅力の創造や発信といった課題の解決を図るものでございます。目標事項の①②③とも実績値が大幅に目標値を上回ったことから、市の評価はA評価としました。

次に、資料5の16ページをご覧ください。「ふるさと応援寄附金事業」ですが、事業概要としましては、全国の寄附者と繋がりを図ることにより、地元特産品のPRや販売促進、観光誘致につなげることで、地元企業・地域の活性化をめざすものでございます。目標事項である寄附件数の実績値が大幅に目標値を上回ったことから、市の評価はA評価としました。

基本目標②の補足説明は以上です。

委員長： それでは、基本目標②の各事業について、ご意見・ご質問いかがか。

委員： 8ページの「住宅総合助成事業」の「要件を緩和」については、町会の加入の要件を無くすことだと思いますが、どんな影響があったのかを教えてください。

幹 事： 町会加入の要件があったことにより、申請ができない方もいらっしゃるので、町会加入の要件を外した。そのことにより、2割程度の申請が増えた。

委 員： 昨年度の評価委員会の際にも話がありましたが、町会加入促進の施策は別の施策で実施するということでよろしいか。

幹 事： 町会加入を促進する施策も大事ですが、それよりもまず定住していただく、もしくは泉佐野市から出ていかれる方を泉佐野市で住んでいただくような施策を実施し、それから町会加入の促進という別のメニューを併せて実施していく。町会加入の要件を無くしましたが、町会加入促進のパンフレット等を申請者に配布している。

幹 事： 住宅総合助成事業から町会加入の要件を無くしたあと、町会加入がどれだけ減少したかを調べたところ、5件ほど少ない現状である。

委 員： 例年よりも少ないということか。

幹 事： 住宅総合助成事業から町会加入の要件を無くしたあとは、5件ほど減少した。恒常的に町会加入率は下がってきており、この施策をやめたことで大きく下がったことではない。

委 員： ありがとうございます。

委 員 長： 他、いかがか。

委 員： 16ページの「ふるさと応援寄附金事業」について、昨年は守りの部分を強化するとのことであったが、現状どのような状況か。

幹 事： 年末に需要が高まるところで、令和3年度は品質・遅延等でクレームがあったが、令和4年度に関しては、品質や在庫管理のチェック体制を強化し、遅延やクレームが減少している。また、ふるさと納税はレビューや口コミによって大きく影響されるが、大幅に改善されており、リピート率も20%ほど改善されている。令和3年度の影響で令和4年度は下がってしまうという懸念がありましたが、2割ほど増加し、その好影響が令和5年度も続いており、3割ほど伸びてきている。改善したことが、功を奏したと認識している。

委 員： ありがとうございます。

委 員： コロナの影響があった案件の9・10・11・12ページについて、昨年度はD評価で、今年度はC評価となっているが、実績値は目標値より結構下回っている状況はいかがか。

幹 事： 数値目標としては届いていない現状はあるが、昨年度は少しずつインバウンドに関する入国制限の緩和があり、10月にはほぼ制限もなくなり、回復傾向にある。また、国内向けで「Go to IZUMISANO キャンペーン」という泉佐野独自の事業も実施し、全国的には全国旅行支援の取り組みもあり、国内の動きも活発化している。そのようなことも含めてC評価としている。

委員 長： ありがとうございます。先程のコメントについては、令和3年度から令和4年度でそもそも目標値が増えている中で達成率も増えており、絶対数も増えているということである。

委員 長： 他、いかがか。

基本目標②の事業については、市の自己評価のとおりとさせていただきたいがよろしいか。《はい》

それでは、そのようにさせていただく。

続いて、基本目標③「結婚・出産・子育ての希望をかなえる」について、事務局から補足説明あればお願いをする。

事務局： 《基本目標③の事業について補足説明》

基本目標③に掲げる各事業に対する補足説明をさせていただきます。

資料4の評価一覧表表面下段の表をご覧ください。

基本目標③「結婚・出産・子育ての希望をかなえる」に掲げた事業は14事業です。市の評価につきましては、A評価が4事業、B評価が5事業、C評価が4事業、D評価が1事業となっています。

引き続き、資料4の評価一覧表の下段をご覧ください。基本目標③のうち、①安心して妊娠・出産・子育てができる環境づくりにおける20番と22番、②児童・生徒の学力・体力の向上・キャリア教育の推進における27番、③国際交流の推進における29番、そして④仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）の啓発における30番につきまして、新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受けた事業として、市の評価欄を青色のセルで表記しています。これは、コロナ禍の影響による活動の中止や縮小、また事業の中止や縮小などにより、そのKPIの数値が低迷もしくは実績が無い状況です。資料5の19ページ、21ページ、26ページ、28ページ、29ページがその該当事業ですが、こちら先ほどの評価方法の説明でもお伝えしましたとおり、出された数値そのものでシビアな判断・評価を行ったことにより、B評価やC評価、D評価となっています。

それでは、資料5の18ページをご覧ください。「さのっ子ナビ（電子母子手帳）による子育て支援」についてですが、事業概要としましては、妊娠中の役立つ情報をはじめ、予防接種のスケジュール管理や健診記録など、妊娠から出産、子育てまでの支援を行うものです。目標事項の実績値や達成度について、目標どおりに進捗したとは言えないため、C評価としました。

次に、資料5の22ページをご覧ください。「小学校通学支援事業」についてですが、事業概要としましては、立地的に支援が必要な地域又は山間部に立地する大木小学校について、マイクロバスを借り上げ、子ども達が安心・安全に学べられるよう、通学の支援を行うものです。目標事項の「通学バス利用児童数」の達成度が昨年度に続き100%を超えたことから、A評価としました。

次に、資料5の23ページをご覧ください。「ICT活用教育推進事業」についてですが、事業概要としましては、市内小中学校にPC端末等の環境整備を行うとともに、教職員がICT機器を効果的に活用できる環境整備も行うことで、よくわかる授業づくりと学力の定着・向上をめざすものでございます。目標事項の「授業におけるPC端末の月平均利用回数」の達成度が100%を超えたことから、A評価としました。

次に、資料5の27ページをご覧ください。「地域の情報拠点としての図書館機能の充実」についてですが、事業概要としましては、魅力ある図書館運営に努めるとともに、資料の充実とニーズに応じた的確な資料提供に努めるものです。目標事項の①図書館蔵書冊数及び②年間個人貸出点数とも達成度が100%を上回ったことから、市の評価はA評価としました。

次に、資料5の30ページをご覧ください。「泉佐野市結婚新生活支援事業」についてですが、事業概要としましては、新婚世代の住居費及び引っ越し費用を支援することにより、結婚に伴う経済的不安の軽減を図るものです。目標事項の「結婚新生活支援事業補助金交付件数」の達成度が100%を超えたことから、A評価としました。

基本目標③の補足説明は以上です。

委員長： それでは、基本目標③の各事業について、ご意見・ご質問いかがか。

委員： 26ページの「家庭への支援事業（スクールカウンセラー等による相談）」について、大阪府の中学校不登校生徒数（千人率）の平均は40.5人で、全国平均は39.4人である。それに対して、泉佐野市では令和3年度は50.6人で令和4年度は60.1人となっており、大阪府や全国よりも多いことは理由があるのか。

幹事： コロナによる一斉休校や分散登校により、生活が不安定になったことが不登校に繋がっている。また、コロナ感染の不安により、学校に来れないということも考えられる。そのようなこともあり、本市でも全国でも不登校が増加している状況である。

委員： 改善の取り組みはいかがか。

幹事： 現在不登校の生徒を改善するのはなかなか難しい課題である。カウンセラーの枠を拡大し、不登校を予防するために人材を登用し、家庭の相談に応じたり、生徒と接する時間を増やしたりしている。

委員： カウンセラーの人数は小・中学校で適当な数なのか。

幹事： 数は言いませんが、頻繁に相談を受けている。現場でも数が足りないという声もあり、増やしていくように考えている。

委員： なかなかカウンセリングを受けることができないということを目にしたので、人数が足りないのでは。

幹事： カウンセラーについては、今年度も拡充している。

委員： 不登校で休んでいるときの受け入れ先はあるのか。

幹事： 教育支援センターが2カ所あり、学校復帰に向けて個別に対応している。また、令和3年度からできたフリースクールと連携しながら、教育の機会を保障するために取り組みを行っている。

委員： 18ページの「さのっ子ナビ（電子母子手帳）による子育て支援」について、令和3年度・4年度と実績値が下がっている中で、令和5年度は54%で推移しているという認識でよろしいでしょうか。また、令和5年度以降回復する見込みはあるのでしょうか。

幹事： 54%はその年度の出生数の54%となっている。コロナの影響により、検診等で来ていただいてもすぐに帰宅される方が多く、従来と比べると会話する機会が減り、アプリを勧める機会が減ってしまったが、現在は回復傾向であると考えている。

委員： 足元は回復傾向であると認識しました。コロナの影響について、チェックマークがないがいかか。

幹事： 原課としてはコロナの影響があると考えている。

委員： 25ページの「泉佐野市の未来を創る教育事業」について、1つのKPIが達成しており、1つのKPIは未達成であるのをどう判断するのか。

事務局： 算数のKPIが達成していること、国語のKPIは昨年度より目標値に近づいていることを総合的に判断して、B評価としている。

委員長： 他、いかかか。それでは、基本目標③の事業については、評価については市の自己評価のとおりとさせていただきます。《はい》

次に基本目標の④「時代に合った地域をつくり、安全な暮らしを守るとともに、地域と地域を連携する」について、事務局から補足説明をよろしくお願ひしたい。

事務局：《基本目標④の事業について補足説明》

それでは、基本目標④に掲げる各事業に対する補足説明をさせていただきます。

資料4の裏面の上段をご覧ください。

基本目標④「時代に合った地域をつくり、安全な暮らしを守るとともに、地域と地域を連携する」に掲げた事業は13事業です。市の評価につきましては、A評価が3事業、B評価が2事業、C評価が8事業となっています。

引き続き、資料4の評価一覧表の裏面をご覧ください。基本目標④のうち、①交通ネットワークの整備における33番、②市民が地域防災の担い手となる環境の確保における37番、④高齢者の健康づくりにおける40番、そして⑤地域づくりにおける44番につきまして、新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受けた事業として、市の評価欄を青色のセルで表記しています。これは、コロナ禍の影響によるインバウンドの減・観光客の減、あるいは活動の中止や縮小、また事業の中止や縮小などにより、そのKPIの数値が低迷もしくは実績が無い状況です。資料5の32ページ、36ページ、39ページ、43ページがその該当事業ですが、こちらも先ほどの評価方法の説明でもお伝えしましたとおり、出された数値そのものでシビアな判断・評価を行ったことにより、B評価やC評価となっています。

それでは、資料5の33ページをご覧ください。「泉佐野市大防災訓練」についてですが、事業概要としましては、11月第一日曜日の「市民防災の日」に市域全体で地域の自主防災組織を主体とした大防災訓練を実施するものです。目標事項の防災訓練参加人数の達成度が低下したことから、

C評価としました。

次に、資料5の34ページをご覧ください。「地域防災の担い手の確保」についてですが、事業概要としましては、災害等に関する正確な知識を習得し、地域における防災・減災リーダーの育成を図るため、防災士資格習得研修を実施するものです。目標事項の防災士の資格習得人数の達成度が100%を超えたことから、A評価としました。

次に、資料5の35ページをご覧ください。「地域の絆づくり登録制度」についてですが、事業概要としましては、避難行動要支援者に対し、あらかじめ市に登録していただき、地域の支援団体や関係機関とその情報を共有し、平常時の見守りや災害が発生したときの避難支援活動、安否確認に役立てるものです。目標事項の①についてはKPIが目標以上に進捗しているものの、目標事項②については達成度が低かったことから、総合的な判断として、C評価としました。

次に、資料5の37ページをご覧ください。「泉佐野電力及び泉佐野ガスの運営」についてですが、目標事項①の「調達電力に対する再生可能エネルギーの割合」の達成度が、一部の太陽光発電所のパワコン故障などにより、目標どおりに進捗したとは言えないため、C評価としました。しかしながら、このシートの下段にある改善（A）欄にも記載がありますが、今後の取り組みにより改善が見込まれることを申し添えいたします。

次に、資料5の38ページをご覧ください。「健康マイレージ事業」についてですが、事業概要としましては、健康教室への参加や各種検診の受診など、健康づくりの取り組みに対し、泉佐野地域ポイント（さのぼ）の付与を行い、健康づくりへの積極的な参加促進を図るものです。目標事項の「健康マイレージの参加者数」の達成度が昨年度に続き100%を超えたことから、A評価としました。

次に、資料5の40ページをご覧ください。「防犯推進事業」についてですが、事業概要としましては、町会等が自ら管理するLED式防犯灯の整備することに対し補助金を交付することにより、地域住民の自主防災意識の高揚に寄与することを目的とするものです。目標事項①の実績値や達成度について、目標どおりに進捗したとは言えないため、C評価としました。

次に、資料5の41ページをご覧ください。「町会連合会の加入促進事業への補助金」ですが、目標事項①の「町会加入率」の達成度が目標どおりに進捗したとは言えないため、C評価としましたが、令和5年度につきましても、新規加入世帯に対する「さのぼ」ポイント付与事業や、町会・自治会へのインセンティブとして、新規加入世帯1世帯あたり5,000円の報奨金を町会・自治会へ交付する制度を継続、加入勧奨を進めていくこととしています。

次に、資料5の44ページをご覧ください。「キャッシュレスや地域通貨の活用促進」についてですが、事業概要としましては、官民連携による地域ポイント「さのぼ」を通じて、地域外への経済流出を防ぐこと、および新たな地域内経済への流入を増やすことで、地域内経済循環を高め、自立した地域経済の活性化を図るものです。目標事項の①「地域内消費額」及び②「カード会員数」ともに目標値を大幅に超えてきたことから、A評価としました。

基本目標④の補足説明は以上です。

委員長： それでは、基本目標④について、ご意見・ご質問いかがか。

委員： 37ページの「泉佐野電力及び泉佐野ガスの運営」について、足元の実績値が約31%となる見込みであるが、令和5年度の目標値は42%としており、目標値の変更は必要ないのか。

幹 事： 目標値を毎年 5%の増加、令和 7 年度には 50%を目標としており、目標値の変更は考えていない。

委 員： 足元の状況等を踏まえても、令和 7 年度の目標値 50%で進めていくという理解でよろしいか。

幹 事： その通りである。

委 員： 41 ページの「町会連合会の加入促進事業への補助金」について、4 年度評価に記載ある算出方法を含め分析が必要であるという記載は昨年度もありましたが、やはり算出方法の分析は難しいのでしょうか。

幹 事： 現在の算出方法は、分母が世帯で分子は市報の配布枚数で算出しているが、近隣市町と算出方法が異なる。泉佐野市では単身世帯が増え、分母が増えており現在の算出方法でよいのかは昨年度から引き続き検討している。

委 員： 今の段階ではまだ検討中なのか。

幹 事： どの算出方法が妥当かを検討している。

委 員： そこが固まらなかったら評価が難しいのでは。

幹 事： 各町会長様は加入率が下がっている意識がない。メンバーが変わっていないが、世帯が増えているので、加入率が下がっているということで、新しい人たちが参加できるように話をしている。また、町会離れが全国的な問題である。役員になりたくないという傾向があるので、役員の仕事を DX 化する必要があるのではと市役所と町会連合会で話し合いをして検討している。

委 員 長： 国で定められた基準はないということか。

幹 事： ないです。

委 員 長： 各市町で工夫して定めているのか。

幹 事： おっしゃる通りです。

委 員： 42 ページの「認知症支援事業」について、B 評価に対して、コメントの目標値に到達しなかったという表現はいかがか。

幹 事： 達成率が 95.6%ということで B 評価としているが、原課としては、少しでも目標値に近づけたということから記載のような表現にした。

委 員： 39 ページの「介護予防事業」について、音楽介護予防教室参加者数は結構な人数が参加されているのに対し、ロコトレ教室参加者数の目標値、実績値が低い。違いはなにか。

幹 事： 音楽介護予防教室は、カラオケ機器を使った健康体操を市内 56 か所で行っている。ロコトレ教室は、運動機能向上プログラムを利用して教室を開いているが、専門的な内容がある。音楽介護予防教室は盛況で各町会でも頑張っているが、ロコトレ教室は参加人数が少なくなっており総合的に判断して C 評価としている。

委 員： 音楽介護予防教室とロコトレ教室を合体させる取り組みはいかがか。

幹 事： 検討させていただく。

委 員 長： 他いかがか。《なし》

それでは、基本目標④の事業については、市の自己評価のとおりとさせていただくということではよろしいか。《なし》

それではそのようにさせていただきたい。

それでは、全事業①から④についての評価をさせていただいたが、全体を通じて、改めてお気づきの点や疑問点などはないか。《なし》

本日の評価結果は、事務局で一覧にとりまとめて、後日ご確認をお願いするというようにさせていただきたい。

次に次第の（3）今後の予定について、事務局の方から説明をお願いしたい。

事 務 局： 《今後の予定について説明》

委員の皆さま、ありがとうございました。

今後の予定につきましては、本日、各委員の皆様からいただいた各事業に対する評価や

ご意見を踏まえ、事務局の方で、評価一覧表として、まとめさせていただき、まとめたものを吉村委員長と調整させていただいたうえで、各委員の皆様へ送付したいと考えております。そして、それぞれご確認いただきまして、もしご意見等があればお伺いし、最終まとめさせていただきたいと考えています。

従いまして、事業評価委員会につきましては、一旦、本日の 1 回で終わらせていただこうと考えています。なお、国の交付金の事業報告で、事業評価について別途、開催する必要がある指示があった場合など、どうしても皆さまのご意見をいただいた方がいいということになれば、またご連絡させていただくこともあるかも知れませんので、その際にはよろしく申し上げます。

そのほか、最終まとめた評価一覧表につきましては、国をはじめ、9月に開催されます市議会9月定例会にて報告する資料にしたいと考えています。

以上でございます。

委 員 長： 今後の段取りについてご説明いただいたが、こちらでよろしいか。《なし》

それではそのような段取りで進めさせていただく。

それでは次に、次第の（4）その他であるが、皆さまの方から何かあるか。《なし》

《終了》